

設備について、(その3)

順序が一つ飛んだようですが、アンテナ設置の第3段です。 小規模でのアンテナ設置は(その1)に書きましたが、もう、一段階上の屋根上から、ルーフタワーを使っての設置方法に成ります。

ルーフタワーにも高い物から低い物迄、種々有ります。 余り高さを稼ぐ為に高い物を選ぶと、強風に晒され、いつも心配しなければ成りません。 アンテナの種類や数で適当な所で妥協して下さい。

ルーフタワーの場合は、ほとんど自立タワーと変わりはありませんが、タワーの材質が軽量化する為メーカー品はアルミ材です。 根元の開き(根開きと言います)も様々で、広い物は1, 2m位、有ります。広い方が、やはり安定度は有ります。 最高は3段程度組み上げられます。

一段のセクションの長さは約2mですから、3段を組み上げると6mの高さに成ります。 2階建ての屋根上に建てるとしたら、約10m~12m位に成り、チョットした自立のタワーと同じ高さに成ります。材質はアルミですので軽くて、屋根にも負担が掛かりませんが、あくまでアンテナ次第です。

自立のタワーと違って屋根の上に据えるので、当然倒れないように支線が必要です。 支線に伴いそれなりに小物の部品も必要に成ります。 又、屋根の形状で建て方も変わって来ます。 北海道や雪国では、無落雪屋根、と言った平らな屋根が有ります。 温かい地方ではお目にかかれませんが他、三角屋根、片流れ屋根と様々ですが、屋根の形に合わせた建て方が必要です。

例えば、片流れの屋根では、上側に成る方のタワーの足元を屋根の傾斜に併せて切断して、斜めに成らない様調整が必要です。 取り付けるアンテナが八木アンテナなら、指向性も有りますから、アンテナを回すためのモーターも必要です。 では、いつも乍ら絵を書いて見ましょう。

